

平成27年度の相談室活動を振り返って

(1) シャイニングクラス (適応指導教室)

シャイニングクラスも3月7日(月)の「修了の会」で今年度を締めくくりました。昨年4月15日(水)の学級開きは2名でのスタートでしたが、6月に3名の生徒が加わり、10月に1名、そして1月から2月にかけて3名の生徒が参加し通級生は9名となりました。学校に強い拒否反応を示す生徒もいますが、大多数の生徒は、シャイニングでの学習終了後、登校しています。その他、通級届けの提出には至らなかったものの、夏休み期間中に5日間学習来室した児童生徒も2名いますので、今年度は最大11名の児童生徒とのかかわりを持ったこととなります。学習日数は143日(教科学習113・体験活動23・自主学习7)でした。



(2) 教育相談活動 (2月末現在)

相談内容	件数(前年比)	割合%
① 学業生活(学習・生活)	47(-6)	18.6%
② 不登校	70(+29)	27.7%
③ 自立支援(中卒以上)	125(+74)	49.4%
④ 学校・教育(意見・要望)	2(-1)	0.8%
⑤ その他	9(-8)	3.6%
計	253(+88)	100.1%

2月末までの相談件数は253件と前年度を大きく上回りました。増加の著しい項目は「不登校」「自立支援」関連の相談で、不登校関連では前年比+29、自立支援関連では+74です。カウントは保護者等の相談だけでなく、学校からのシャイニングの問い合わせや依頼相談、情報提供や情報交換等も含めた数値になります。相談室としては多面的に児童生徒を理解するうえで好ましい傾向にあると捉えています。また、自立支援関連では、月7~8回ほぼ定期的に

電話や来室する若者がいますが、高校を中退し進路変更の相談や近況報告で来室する高校生もみられました。小中学生に関する相談は母親や祖母が多く、相談の多くは複数回です。

(3) 主な相談内容は以下の通りです。

- ① 学業生活相談：「些細なことがかつとなる」「言うことを聞かない」等、困り感での相談。友達とのトラブル(暴言・暴力)が多く、学習にも集中できないという子の相談。孫の行動(お金のこと・ものの破損)を心配する祖母の相談等。
- ② 不登校相談： シャイニング入級に関する保護者の問い合わせ。不登校生を抱える保護者の悩み相談。不登校生の学習の遅れや進路を心配する相談等。
- ③ 自立支援相談： 四方山話で心の安定を図る若者の来室。高校へ進学したが適応できず進路変更の相談等。
- ④ 学校・教育(意見・要望)： 学校のいじめ対応への不満。我が子の気持ちを分かってくれない学校に対する不満等。
- ⑤ その他： 家庭訪問をして子どもの生活や学習の指導をしてほしいという依頼。

(4) 気楽に話し合う会

偶数月の第3金曜日の午後7時から行っている「気楽に話し合う会」は204回を数えました。



数学の学習(3/4)

月	4	6	8	10	12	2	合計
参加者数	4	4	1	3	3	2	24

した。

今年度は延べ24名の皆様に参加をいただきました(前年比-7)。月別参加人数は表の通りです。不登校生を立ち直らせた保護者の経験談(悩んだことやどう関わってきたか)やアドバイスは、現在、不登校の生徒を抱え悩んでいる保護者の方にはとても参考になったであろうと捉えています。

「人の一生は重荷を負うて・・・」

シャイニングクラスのこの1年 (適応指導教室)

学校に行けなくなったり、行かないことを選択したりする人達は残念ながらなかなか減らないようです。「人の一生は重荷を負うて～」と言った徳川家康公の格言のように、長い人生は多くの失敗や不安やつまずきがあるものです。急がず焦らずに進んでほしいものです。長い人生をどう生きるか。多くの経験や学習が役立つことは年齢を重ねると分かることですが、小・中学生の時は、厳しさや疑問等ばかりを強く考えてしまうのかも知れません。



伊豆倉先生の激励「修了の会」(3/7)

2月中旬、シャイニングに通級する生徒にこんな問い掛けをしました。**どういう心の変化を経て最終的に入級しようと決意したの？** 「3年生で受験が近づいてそろそろ勉強しないといけないと思ったから」「このままでは何も変わらないと思ったから」・・・**足を踏み入れた初回はどう感じたの？** ガチガチになってどうすればいいかわからなかったけど、生徒が気楽に声をかけてくれて、それで心が落ち着き『これなら続けられる』と思った」「緊張したが先生が笑顔で温かく迎えてくださり、学習についての意見も聞いてくれたので、続けていけそうだと感じた」・・・**もし、シャイニングクラス入級を迷っている生徒がいたら、どう声掛けする？** 「学校に行っている友達と違う習慣を始めるのはとても勇気がいることだと思うので、シャイニングのメリットを伝えて、時間をかけながらその人が前に進めるようにしてあげたい」「シャイニングは、家庭以外の心の支えになる場所だよと話したい」「シャイニングは心優しい人達がたくさんいる。日々の思いや悩み、その他にも気楽に楽しめる所だ。だからシャイニングに気が向いたらでいいんだ。来いよ。と話したい」との反応でした。

7日の「ありがとうの会(修了の会)」は通級生全員で考え、準備し、運営しました。3年生が司会・進行し、全員が感謝の思いを発表しました。参加していただいた方々からは、温かい励ましの言葉を頂戴し、「先生方の言葉がとても心に響いて、勇気や元気をもらうことができました。」と卒業生のひとりが振り返りノートに記していました。今までいろいろな思いを心に秘め通い続けた生徒の文言です。希望に満ちた人生を歩んでくれるものと期待しています。

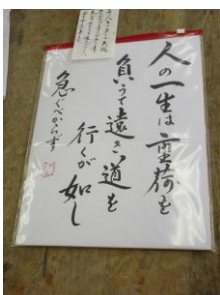
私は去年の4月からシャイニングに通っています。1年生の後半からほとんど勉強していなかったので、授業についていけない不安でした。ですが、教科の先生方から、週一回という少ない授業の中で丁寧に分かりやすく、教えていただいたおかげで少しずつ力がついていきました。テストでもいい点数とはいえないような時もありましたが、徐々に平均点に近づけるようになりました。それが自分の自信になり、次も頑張ろうという気持ちになりました。(省略) 学習面や気持ちの面でたくさん支えられた一年でした。高校でもシャイニングの生活をバネにして頑張っていきたいです。 「ありがとうの会(修了の会)」での感謝のこぼし・中3年生

あとがき

中学を卒業して新しい道に進み出す子どもたちにとって、高校受験に成功することが「人生を決める」ということではないことは、はっきりしていると思います。「高校受験に失敗したからといって「私の人生は終わりである」なんていえるはずはありません。

人生は、一つの失敗で決まったりするものでなくて、たくさんの失敗に出合いながら、それを転機にしていちばん自分らしい生き方をさぐっていくものなのでしょう。それはきっと、失敗はいっぱいあるけれど、そのおかげで思わぬ自分の力や興味関心が発見されていく——そういうものなのだと思います。子どもたちはどんな道を歩み、どんな発見をしていくのでしょうか。どちらにしろんでも<シメタモノ>です。

学校教育課 杉沼指導主事の 激励「修了の会」(3/7)



畑の先生五十嵐さんからは、子どもたちに色紙が贈られました。「人の一生は重荷を負うて遠き道を・・・(家康の格言)」(修了の会・3/7)

教育相談連絡先

- ダイヤルなんでも相談
TEL 23-7266
- 適応指導教室(シャイニング)
TEL 22-2111
(内線 445,448)
林、小野、鈴木が担当です。